

新ごみ処理施設工事安全祈願祭行われる

4月15日、根室市新ごみ処理施設整備・運営事業建設工事安全祈願祭が、建設地である幌茂尻70番地5、現施設の東隣で行われました。



祈願祭は神事にのっとり執り行われました。上の写真は、工事管理者である株式会社ドーコンの代表の方が「穿初（うがちぞめ）之儀」で「斎鎌（いみかま）」を行っていらっしゃるそうです。

石垣雅敏市長は、建築主挨拶の中で、現施設は昭和56年建設で老朽化が著しいこと、令和元年に施設の新築を決定したことで、新施設はごみ処理だけではなく環境学習・環境啓発の拠点となること、環境保全目標が設定されていることなどを述べられました。



現在は土木造成工事が行われており、本年5月から建築工事に着工、来年度はプラント工事が始まり、令和10年10月供用開始の予定となっております。工事の安全を願ってやみません。

新ごみ処理施設について、おさらいします

○施設整備の基本方針

- （1）安全で安定性に優れた施設
- ・ごみ処理における施設の稼働や、維持管理において安全かつ安定性に優れた施設

○お金の問題

- （2）環境にやさしく、脱炭素・循環型社会を推進する施設
- ・周辺環境の保全を図るため、環境保全対策に万全を期する施設

- ・ごみ処理から発生するエネルギーを回収し効率的に活用することで、CO2の排出を削減できる施設
- ・太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを有効活用する施設

- （3）災害に強い施設
- ・施設の耐震化など、災害に対する対策を十分に図り、災害発生時においても継続したごみ処理が可能な施設

- ・災害発生時においても、ごみの主要搬入通路が確保されごみの搬入が継続できる施設
- （4）経済性や効率性に優れた施設

- ・施設の建設から運転維持管理まで含めたトータルでの経済性に優れた施設
- ・類似施設との連携が図れ、効率的なごみ処理が可能となる施設

- 建設事業費総額で約90億5千万円見込まれています。大変な金額ですが、このうち国の交付金が約18億7千万円、起債（借金）が約46億3千万円、ごみを受け入れている浜中町からの負担金を含めたその他の財源が約16億8千万円で、根室市の負担（一般財源）は全体の10%以下の約8億6千万円となっています。もちろん、借金は返していかなければなりません。

- 新施設の運転維持管理は委託により行われます。委託期間は19・5年で、トータル109億円、年間で5億円以上かかります。

- 現在の物価高騰やインフレーションなどから、予定されている金額を上回る可能性があります。

○お金の問題

建設事業費総額で約90億5千万円見込まれています。大変な金額ですが、このうち国の交付金が約18億7千万円、起債（借金）が約46億3千万円、ごみを受け入れている浜中町からの負担金を含めたその他の財源が約16億8千万円で、根室市の負担（一般財源）は全体の10%以下の約8億6千万円となっています。もちろん、借金は返していかなければなりません。

新施設の運転維持管理は委託により行われます。委託期間は19・5年で、トータル109億円、年間で5億円以上かかります。

現在の物価高騰やインフレーションなどから、予定されている金額を上回る可能性があります。